

深夜。アパートの一室。外の明かりが窓から差し込んで、部屋の中がぼんやりと見える。手前が居間で、テーブル・ソファ・本棚・テレビなどが置いてある。本棚の上には、ラグビーボール。奥が台所で、テーブル・椅子・冷蔵庫・茶ダンスなどが置いてある。台所の奥側にシンク。その上が窓。その横が玄関。玄関の扉が開いて、岡崎幸一が入ってくる。扉を閉めて、床に倒れ込む。唸り声。よろよろと体を起こし、靴を脱ぐ。冷蔵庫に歩み寄り、扉を開ける。水のペットボトルを取り出し、ラッパ飲みする。溜め息。ペットボトルを持ったまま、居間へ。ソファに腰を下ろす。と、女性の悲鳴。幸一がソファから飛び退く。

幸一　えー？　何？　何？　何？

幸一　幸一が中腰でソファを振り返る。女性がソファから起き上がる。

幸一　：：誰ですか、あなた？
アサミ　痛い。

あ、すみません。あなたが寝てるなんて、知らなかったから。でも、ここは僕の部屋ですよ？　ソファ、テーブル、（ラグビーボールを持って）ラグビーボール。間違いない、僕の部屋だ。あなた、ここで何をしてるん

アサミ 幸一 アサミ 幸一 アサミ 幸一
アサミ 幸一 アサミ 幸一 アサミ 幸一
アサミ 幸一 アサミ 幸一

ですか？
待ってたのよ、あんたを。

僕を？

そう。

もしそうだったとしても、勝手に中に入るの是非常識じゃないですか？

え？ でも、どうやって中に入ったんだ？ 鍵は締めたはずなのに。まさ

か、窓から？ でも、ここは二階だぞ。まさか、電柱を攀じ登って？

まさか。気がついたら、この部屋の中にいたの。

そんなバカな話がありますか。とにかく、あなたのしたことは、家宅侵入

罪です。すぐに出ていかないと、警察を呼びますよ。

まあまあ、そんなに興奮しないで。

(アサミに近寄って) 聞こえませんでしたか？ 僕は出ていけと言ったん

です。

お酒臭い。あんた、酔ってるのね？

そんなこと、あなたには関係ないでしょう？

関係あるよ。

どういう意味ですか？ あなた、僕のことを知ってるんですか？

この顔を見て、わからない？

(アサミの顔をジッと見る)

わかった？

暗くて、よく見えません。

だったら、電気を点ければいいでしょうが。

幸一が壁のスイッチを押す。居間の電灯が点く。幸一がアサミの顔をジッと見る。

アサミ どう？

幸一 ……嘘だ。そんなことはありえない。

アサミ そんなことって？

幸一 そうか。あなた、僕の親戚ですね？ あなたは僕の母によく似てる。間違

いなく、岡崎家の人間だ。ひよつとして、僕らは前に会ってるんですか？
結婚式か葬式で。

アサミ あんたに会うのは、二十三年ぶり。

幸一 二十三年前っていうと、母が亡くなった年だ。ということは、母の葬式の

時ですね？ で、僕とはどういう関係ですか？ 名字はやっぱり、岡崎で

アサミ そう、岡崎。

幸一 名前は？

アサミ アサミ。

幸一 信じられないな。僕の母もアサミっていうんですよ。あ、葬式に来たんだ

から、知ってるか。でも、ごめんなさい。あなたのことは全然記憶にない

アサミ 本当はとっくに気づいてるくせに。

幸一 え？ 何が？

アサミ アルバムはある？ 写真と私を見比べてみなさい。早く。

幸一が本棚からアルバムを取り出し、開く。

アサミ

二人で東京ドームに行った時の写真は？一枚だけ、私の顔がアップになつてるのがあつたでしょう。ほら、入口の前で、あんたが撮ってくれたやつ。

幸一
アサミ

これだ。(アサミと写真を見比べる)

東京ドームができたのは、私が死んだ年だったよね？あんたがどうしても見たいって言うから、夜勤明けで眠いのを我慢して行ったのよ。巨人対阪神戦。それなのに、桑田のやつ、あっさりノックアウトされやがって。

絞め殺してやろうかと思つた。

幸一

アサミ

でも、二人で出かけるのは久しぶりだったから、楽しかった。

私も楽しかった。一年後に死ぬってわかってたら、もつといるんな所に行つておくんだつた。悪かつたね、どこにも連れていかなくて。

幸一

アサミ

：：嘘だ。

嘘じゃない。私はあんたに会いに来たの。

幸一

アサミ

本当に？本当に、母さんなの？

そうよ。久しぶりだね、幸一。

幸一が二十三年の間に出会った人々がやってくる。アサミが棚からカメラを取り出す。幸一・勇治・奈穂子・進太郎が並ぶ。アサミが四人の写真を撮る。幸一・豊川・一宮が並ぶ。アサミが三人の写真を撮る。幸一・知香子が並ぶ。アサミが二人の写真を撮る。幸一と六人が並ぶ。アサミが七人の写真を撮る。人々が去る。

幸一がソファア―に座り込む。

幸一

いや、そんなことは絶対にありえない。母さんであるはずがない。

アサミ

私の言うことを信じないの？

幸一

騙そうとしても、無駄ですよ。僕の母は死んだんです。二十三年前に、心不全で。

アサミ

四月の始めだったよね。夜勤が終わって、家に帰ってきて、寝る前に洗濯だけしておこうと思って、あなたのパンツを洗濯機に入れようとしたら、急に心臓が痛くなってきた。それから後のことは何も覚えてない。たぶん、床に倒れて、そのまま死んだんだと思う。

幸一

そうです。僕が学校から帰ると、母は洗濯機の前でうつ伏せになってました。僕は昼寝でもしてるんだろうと思って、「母さん、寝るなら、布団で寝てよ」って体を揺すって。そしたら、肌が冷たくて。あの時、母は間違

アサミ

私生きてるなんて一言も言っていないよ。

幸一

え？ でも、こうして話もできるし、足もあるし。

アサミ

でも、心臓は動いてない。さつき、自分で触って、確かめてみた。あなた

幸一

も確かめてみる？（と幸一の手をつかむ）
（アサミの手を振り払って）結構です。

幸一
アサミ
幸一

やって生きてきたの？
いきなり、そんなことを言われても。
私が死んで、あんたは独りぼっちになった。一体誰に育ててもらったの？
茅ヶ崎のおじさんだよ。母さんの葬式の次の日、おじさんに言われたんだ。
家に来ないかって。

幸一がアパートの外に出る。勇治・奈穂子がやってくる。

勇治

幸一

幸ちゃん、ちょっと話があるんだけど、いいかな？
うん。

勇治

幸ちゃんのこれからのことだよ。幸ちゃんはまだ六年生だ。ここで一人で暮し続けるわけには行かない。だから、おじさんの家に来ないか？

幸一

勇治

茅ヶ崎に？
そうだよ。借家だけど、一応、一戸建てだし、走れば三分で海に出る。夏は毎日、海で泳げるんだ。サーファーは冬も泳いでるけどな。

奈穂子

幸一

サーファーは関係ないでしょう？（幸一に）おじさんもおばさんも、幸ちゃんと一緒に暮らしたいの。ねえ、家に来ない？

奈穂子

幸一

わかった。でも、この部屋は今月いっぱい借りてあるんだよね？
そうだと思うけど。
じゃ、おじさんの家で暮らすのは、来月からいい？

奈穂子

幸一

それまで、食事はどうするの？掃除や洗濯は？
一人でできるよ。今までだって、母さんと交替でやってきたんだから。

奈穂子

でも、夜は？泥棒でも入ったら、大変じゃない。

勇治 幸一 勇治 幸一 奈穂子 勇治 幸一 奈穂子 勇治 幸一 奈穂子 幸一 奈穂子 幸一 奈穂子

(幸一に) どうして来月からにしたいんだ。友達と別れるのが辛いのか？ 違うよ。

この部屋を出るのが淋しいんでしよう？ 赤ちゃんの頃から暮らしてきたから。

そうじゃなくて、父さんが来るかもしれないから。

刈谷さんが？

お葬式に來られなかったのは、何か事情があったからだと思うんだ。たとえば、奥さんに反対されたとか。でも、そのうち、きっと来る。だって、僕が独りぼっちになったことは知ってるんだから。

違うのよ、赤ちゃん。

やめろ、奈穂子。

こういうことははっきり言っておいた方がいいのよ。いい、赤ちゃん？

刈谷さんは行かないって言ったの。自分には今の家庭がある。アサミとはもう何の関係もないって。

僕とも？

そこまでは言っていない。でも、刈谷さんの所には子供が五人もいるそうだと。

赤ちゃんを引き取るのは、経済的に難しいんだよ。

どうしてそんな嘘をつくの？ 子供は一人だけでしょう？

奈穂子！

(歩き出す)

赤ちゃん、どこに行くんだ？

荷物をまとめてくる。

おじさんの家に来てくれるんだな？

幸一
勇治

奈穂子

うん。
よし、おじさんも手伝おう。いや、もうおじさんじゃないな。今日から俺は幸ちゃんのお父さんだ。奈穂子、近所を回って、ダンボールを集めてきてくれ。
はい、お父さん。

勇治・奈穂子が去る。

アサミ
幸一

勇治のやつ、無理しちゃって。あの子、まだ三十前だったでしょう？二十九だよ。それなのに、いきなり十二歳の息子ができて、大変だったと思う。

アサミ

おまけに、新婚だったよね？ 確か、三カ月じゃなかった？

幸一

本当はイチャイチャしたかったんだろ？ でも、僕の前では我慢してた。

アサミ

奈穂子さんにはいびられなかった？

幸一

全然。むしろ、必要以上に気を遣ってくれて、かえって居心地が悪かった。でも、一年後に赤ちゃんが生まれたんだ。名前は進太郎。

勇治・奈穂子がやってくる。奈穂子は赤ん坊を抱いている。二人で赤ん坊をあやす。

アサミ

最悪だね。実の息子が生まれて、養子のおんたは邪魔になった。今度こそ、いびられたでしょう？

幸一

お婆さんはそんな人じゃないって。でも、子育てが忙しくて、僕に気を遣ってる暇はなくなつた。正直言って、ホツとしたよ。でも、僕を引き取っ

アサミ

幸一

てくれた二人に迷惑をかけるわけには行かない。僕は進太郎の面倒もちやんと見たし、勉強も一生懸命やった。朝から晩まで、いい子にしてなきやいけなかったんだ。息が詰まったんじゃない？

勇治が幸一に歩み寄る。奈穂子は一人で赤ん坊をあやしている。

勇治

何を見てるんだ？

幸一

海の何を？ 波か？ 水平線か？

勇治

水平線の向こうには、何があるのかな？

幸一

海じゃないかな。

そんなことはわかってるよ。でも、この前、図書室で読んだんだ。ケルト神話の本。ケルト族の人たちは、水平線の向こうに死者の島があると思ってたんだって。

勇治

へえ、幸ちゃんはそんな難しい本を読んでののか。偉いな。でも、おじさんは理科の先生なんだ。ケルト族のことはよくわからない。

幸一

僕が聞いているのは、おじさんがどう思うかだよ。死者の島って、本当にあるのかな？

勇治

なあ、幸ちゃん。ここから水平線まで、何キロあるか知ってるか？

幸一

知らない。

勇治

幸ちゃんの目と水平線と地球の中心。この三つを直線で結ぶと、一つの三

角形ができるよな？ 地球の中心から水平線までの辺は、地球の半径と等しい。この辺の長さを六四〇〇キロとしよう。次に、幸ちゃんの目の高さ
が地面から一五〇センチだとすると、地球の中心から幸ちゃんの目までの
辺の長さは六四〇〇と〇、〇〇一五キロ。この二つがわかれば、残りの辺
の長さはピタゴラスの定理で簡単に出来る。

ピタゴラスの定理？

勇治 勇一 勇一 勇一
そうか。中一じゃ、まだ習ってないか。じゃ、計算は省略して、答えはな

んと、四、四キロ。

たったそれだけ？

勇治 勇一 勇一 勇一
そうだよ。あんなに遠くに見えるけど、実際は意外と近い。もし水の上を

歩けたら、一時間もかからずに到達できる距離なんだ。

自転車なら、十五分だよ。

勇治 勇一 勇一 勇一
姉さんはすぐ近くにいる。幸ちゃんのことをいつも見てるんだよ。

勇治・奈穂子が去る。

アサミが台所でコーヒを淹れている。

アサミ

私は見てなかったよ。

幸一

え？ そうなの？

アサミ

言ったでしょう？ 洗濯機の前で倒れてから後のことは、何も覚えてない

って。

幸一

ひどいな。僕はずっと信じてたのに。

アサミ

(カップをテーブルに置いて) ほら、コーヒが入ったよ。お砂糖は何杯？

幸一

知らない。僕はブラック専門なんだ。

アサミ

嘘。子供の頃は甘いものが大好きだったのに。

幸一

(台所へ行って、カップを取り) 大人になると、味覚が変わるんだよ。僕

が子供の頃、食べられなかったものは覚えてる？

アサミ

スイカ、メロン、キュウリ。瓜科のものは全部ダメだった。

幸一

当たった。やっぱり、母さんなのかな？

アサミ

あんた、まだ信じてないの？

幸一

あれから二十三年も経ったからね。スイカもメロンも大好物になった。キ

アサミ

ュウリはいまだにダメだけど。(とコーヒを飲む)

アサミ

三十五にもなってる？ それで、人付き合いはうまくやっけていけるの？

幸一

まあ、何とか。会社の同僚の前では我慢して食べてるし。

アサミ

会社って、どんな会社？　今、どんな仕事をしてるの？

幸一

(ラグビーボールを持って)ラグビー。

アサミ

ラグビーの何？　ボールを作ってるの？　それとも、売ってるの？

幸一

そうじゃなくて、ラグビーをやってる。僕は社会人ラグビーの選手なんだ。

アサミ

嘘嘘。あんた、球技はまるでダメだったじゃない。ほら、五年生の時、体育の授業でボールが頭に当たって、病院に運ばれて。

幸一

僕は、野球は苦手だったの。

アサミ

野球だけじゃなくて、サッカーもポートボールもダメだったでしょう？

幸一

そのあんたがラグビーの選手だなんて、絶対にありえない。

幸一

(アルバムを差し出して)ほら、これを見て。僕は高校でラグビー部に入

アサミ

ったんだ。三年の時は花園まで行った。おかげで、大学には推薦で入れた

幸一

し、今の会社にも誘ってもらえた。

アサミ

なんて会社？

幸一

家電メーカーの、初芝。

幸一がアパートの外に出る。豊川がやってくる。

豊川

早稲田の岡崎か？

幸一

慶応の豊川だな？

豊川

うれしいよ、おまえとチームメイトになれて。(と右手を差し出す)

幸一

俺だって。(と握手しようとする)

豊川

(幸一の右手をつかんで、捻り上げる)

幸一

おい、何するんだ。

豊川 幸一 豊川 幸一 豊川 幸一 豊川 幸一 豊川 幸一 豊川 幸一

覚えてるか？ 去年の大学選手権。残り一分で、汚いタックルをしやがって。おまえのせいで、うちの大学は負けたんだ。

あれは正当なプレイだ。怒って、肘打ちをした、おまえの方が悪い。

おかげで、俺はペナルティーを取られて、おまえにペナルティーゴールを決められて、逆転負け。あれから一週間、チームメイトは口をきいてくれなかった。彼女は一カ月だ。

でも、最後は許してくれたんだろう？

一カ月後に彼女がなんて言ったと思う？ 「私たち、もう終わっちゃってみたい」だと。

それは俺には何の関係もないことだけど、同情はするよ。残念だったな。（幸一の右手を放して）よし、これで言いたいことは言った。わだかまりは何もない。よろしく頼む。（と右手を差し出す）

こちらこそ。（と握手して）で、新しい彼女はできたのか？

今のところはまだ。でも、四月からは、俺も初芝の人間だ。ガツガツしなくて、向こうの方から寄ってくるさ。

そのためには、一日でも早く、レギュラーにならないと。

おまえはいいよな。四月からすぐにレギュラーだろう。

そんなの、わからないよ。大学時代はラグビーだけやってればよかったけど、これからは会社の仕事がある。うまく両立できるかどうか。

心配するな。仕事は午前中だけじゃないか。それに、午後からいなくなる人間に、難しい仕事をさせるわけがない。適当にやればいいんだよ、適当に。

そこへ、一宮がやってくる。

一宮

遅くなって、ごめんなさい。広報部で社内報の編集を担当している、一宮です。入社式までまだ一カ月もあるのに、わざわざお越しただいて、申し訳ありません。

豊川

いえいえ、入社が決まったその日から、僕は初芝の人間です。会社のためなら、何でもします。(と一宮の手を握る)

一宮

今日は、ラグビー部の新入部員の紹介ということで、お二人にいろいろ質問していきたいと思います。社内報ですから、読むのは初芝の社員だけです。ぜひ、ざっくばらんに話をしてください。

豊川
一宮

わかりました。ざっくばらんですね。それじゃ、早速、始めましょう。まずは、入社に当たっての意気込みをお聞きしたいんですが。じゃ、岡崎さんから。

岡崎
豊川

(一宮に)僕が先にお答えしましょう。僕は、高校でラグビーを始めた時から、初芝に憧れていました。一日でも早くレギュラーになれるように、頑張ります。

岡崎さんは？

僕も豊川君と同じです。

幸一
一宮

そうですね。でも、大学と社会人はやっぱり違いますよね？ 何か不安はありますか？

不安ですか？ そうですね。

幸一
豊川

(一宮に)もちろん、不安でいっぱいです。午前中は会社の仕事もしなく

幸一 豊川
幸一 一宮 幸一 一宮 豊川
一宮 豊川
一宮 豊川
一宮 豊川
幸一 一宮 幸一 一宮

ちやいけないし。でも、社会人なんだから、甘えは許されない。仕事とラグビーをしっかりと両立していきたいと思います。

岡崎さんは？

僕も豊川君と同じです。

岡崎さん、もつとぎつくばらんに行きましよう。

そうだよ、岡崎。「豊川君と同じです」ばっかりじゃ、一宮さんが困るだろう。

豊川さんも豊川さんですよ。絵に描いたような答えばかりで、おもしろくも何ともありません。

すみません。次からは頑張ります。

じゃ、次の質問です。豊川さんはそもそも、なぜラグビーをやるうと思っ
たんですか？

すみません。僕は岡崎君の後でいいですか？

じゃ、岡崎さん。ラグビーを始めたきっかけは？

僕はゴールキックが好きなんです。特に、ペナルティーゴールが。

どうしてですか？

あれって、ハーフウェイ付近から狙うと、五十メートル近い距離になるで
しょう？ 初めてテレビで試合を見た時、どこかの選手がそれをやって。

あんなに遠くから入るわけないと思ってたら、きつちりクロスバーを越え
ていったんです。ボールの軌跡が信じられないほどキレイだった。まるで

水平線の向こうへ飛んでいくようで。
ラグビーのゴールポストがなぜあんな形をしてるか、知ってるか？
いや。

豊川

幸一

豊川

一宮

豊川

一宮

豊川

幸一

ポストが二本とクロスバーが一本。ローマ字のHと同じ形だよな？ あれ

は水平線を意味してるんだ。水平線を英語で言うのと？

HORIZON。

ほら、頭文字がHだろう？

そんな話、初めて聞きました。

僕もです。

え？ 今のは嘘なんですか？

だって、あなたがおもしろいことを言えって言うから。

(一宮に)でも、ありえない話じゃないですよ。僕はペナルティーゴール

を蹴る時、いつも「遠くない、遠くない」って思ってたんです。「見た目

ほど遠くない。水平線みたいに、すぐ近くだ」って。

豊川・一宮が去る。

アサミが居間でアルバムを見ながら、ポテトチップをかじっている。

アサミ

ねえねえ、豊川君で、どの人？

幸一

何を食べてるの？

アサミ

ポテトチップ。茶ダンスに入ってたから、勝手にいただいたいちゃった。

幸一

それは別に構わないけど、幽霊でもお腹が空くの？

アサミ

コーヒーを飲んだら、お茶菓子がほしくなっちゃってね。それより、豊川

君はどれ？ この人？（とアルバムを指差す）

幸一

（居間へ行って、アルバムの覗き込み）そうだよ。よくわかったね。

アサミ

だって、調子のよさそうな顔してるもの。ラグビー選手より、接客業の

幸一

方が向いてるって感じ。ウェイターとか。

幸一

確かに口は達者だな。僕は口下手だから、入社してからも、なかなか周りに

アサミ

なじめなくて。でも、豊川がいてくれたから、何とか孤立せずに済んだ。

幸一

で、レギュラーにはなれたの？

アサミ

入部して、半年後に。

幸一

本当？

アサミ

また疑うの？

幸一

（アルバムを指差して）だって、他の人たち、みんな凄い体格をしてるじ

アサミ

やない。この人なんか、百キロはありそう。あんたの体格で、そう簡単に

幸一 レギュラーになれるわけない。
ところが、なれたんだ。僕のポジションはスタンドオフって言ってね。パワーよりスピードが重要なんだ。体の大きさは関係ないんだよ。

アサミ じゃ、豊川君も？

幸一 残念ながら、あいつは万年補欠。結局、四年で引退して、会社を辞めた。

アサミ 彼にはパワーもスピードもなかったってわけだ。

幸一 初芝はレベルが高いいんだよ。僕がレギュラーになってから、日本一が五回。

アサミ 凄い。でも、本当？

幸一 (アルバムを指差して) これが五回目の時の記念写真。ちゃんと僕も写ってるだろう？

アサミ (アルバムを見て) この膝のサポーターは？

幸一 体が小さいから、怪我が多くてね。この時は麻酔を打ちながら、試合に出たんだ。そのせいで、怪我が悪化しちゃって。試合の後、チームドクターに引退を勧告された。でも、僕は諦められなくて。

幸一がアパートの外に出る。豊川がやってくる。

豊川 どうだ、膝の具合は？

幸一 よくない。都内の病院をいくつか回って見たんだけど、みんな答えは同じ

豊川 だった。手術をしても、元には戻らないってさ。

幸一 おまえ、アメリカン・フットボールは見るか？

豊川 いや。

幸一 ユウヒビールに、筒井って選手がいるんだけどな。去年、膝を痛めて、一

豊川 幸一

時は引退するって噂だったのに、見事に復活したんだ。どうやら、凄い名
医に治してもらったらしい。

どこの病院の人だ？

平和堂大学付属病院の阿部って先生だ。去年まで、アメリカの大学で関節
の手術の研究をしてたらしい。向こうでも、アメフトの選手を何人も蘇ら

せたそうさだ。

詳しい話が聞きたい。筒井ってやつに会わせてくれ。

それより、直接、阿部先生の所に行け。これが病院の電話番号だ。

豊川 幸一

豊川が幸一に紙を渡し、去る。阿部がやってくる。

阿部 幸一

こんにちは。

あの、阿部先生は？

私が阿部ですけど。

そうじゃなくて、僕はユウヒビールの筒井選手の膝を治した、阿部先生に

診てもらいたいんですが。

筒井さんを担当したのは私です。

あなたが？

意外ですか？

女性のお医者さんだってことは聞いてたけど、まさかこんなに若いなんて。

医師にとつて、経験はむしろ重要です。でも、それ以上に重要なのが、

最新の医学知識。年齢だけで判断しないでください。

すみませんでした。

幸一

阿部

幸一

阿部

幸一

阿部

幸一

阿部

幸一

幸一 阿部 幸一 阿部 幸一 阿部 幸一 阿部 幸一 阿部 幸一 阿部

あなたもアメフトの選手ですか？

いや、僕はラグビーです。

ラグビーですか。私、アメフトの試合はよく見に行くんですけど、ラグビ

ーは一度も行ったことがなくて。だって、ちよつと野蠻じゃないですか。

野蠻？ どうしてですか？

アメフトもラグビーも、選手同士が正面からぶつかるスポーツですよ？

下手したら、大怪我をする。だから、アメフトは、ヘルメットとプロテ

クターの着用が義務付けられています。でも、ラグビーは何もつけない。

それって、危険だと思いませんか？

でも、アメフトの選手だって、怪我をするじゃないですか。

もちろん、そうです。だから、最小限に食い止めるために、あらゆる努力

をしている。でも、ラグビーはそうじゃない。怪我をするのは自業自得っ

て気がします。

そうかもしれない。でも、ラグビーは、あの楕円形のボールが一個あれば

できる。いつでもどこでも。僕はそこが好きなんです。(と歩き出す)

どこへ行くんですか？

帰ります。あなたはラグビーが嫌いみたいだから。

一分前までは嫌いでした。でも、今はちよつと興味があります。岡崎さん

はおいくつですか？

今年で三十です。

三十歳を過ぎると、体力が落ちて、怪我也治りにくくなる。アメフトの選

手なら、そろそろ引退を考え始める年齢です。

それはラグビーも同じです。でも、僕はまだやめたくない。もう一度、ラ

阿部
幸一
阿部
幸一

阿部が去る。

グビーができるなら、何だってやります。
その言葉、忘れないでくださいね。
手術してもらえるんですか？
それは詳しく検査してからです。まずは、レントゲン写真を撮りましょう。
阿部先生、よろしくお願いします。（と頭を下げる）

アサミ

一時間後、写真を見ながら、阿部先生が言った。「あなたの膝はもう限界。手術をしても、元には戻らない」。

幸一
アサミ

そんなこと言っていない。その日は写真を撮るだけでおしまいだっただ。意外と慎重ね。まあ、ああいう口の悪い人に限って、医者としては優秀なのよね。

幸一
アサミ

そうなの？
うちの病院の院長が同じタイプだった。普段はガミガミうるさいのに、手術の腕は抜群。私たち看護婦には嫌われてたけど。

幸一
アサミ

母さん、今は看護婦って言わないんだ。看護師って言うんだよ。バカね。看護士は男よ。

アサミ

違うんだよ。何年前かに、看護婦と看護士をまとめて、看護師って言うようになったんだよ。この場合の「し」は、医師とか薬剤師の「師」。

幸一
アサミ

どうしてまとめなきゃいけないのよ。
さあ。男女平等とか、そういう理由じゃないかな。
冗談じゃないわ。看護婦にはロマンの香りがあるけど、看護師には消毒薬

幸一
の匂いしかしらない。私は絶対に認めないからね。
そんなこと言われても。

阿部がやってくる。ファイルを持っている。

阿部
岡崎さん、思い切って、手術をしましょう。

幸一
それで、元通りになる可能性は？

阿部
五十パーセント。でも、試してみる価値は十分にあると思います。

幸一
わかりました。手術をお願いします。

阿部
ただし、元通りになったとしても、その後が大変です。試合に復帰できる

幸一
まで、最低半年は見えておかないと。

阿部
構いません。もう一度、ラグビーができるなら。

幸一
そのためには、手術だけじゃなくて、体質改善も必要です。今日から、食

阿部
生活を根本的に改めてください。

幸一
根本的に？

阿部
食事は一日三回、きちんと食べる。栄養のバランスを考えて、できるだけ

幸一
野菜を採る。脂肪分は採りすぎない。これ、食べてはいけない食材のリス

阿部
トです。(と幸一に紙を渡す)

幸一
(読んで)え？牛肉も豚肉もダメなんですか？

阿部
バターもチーズもダメです。もちろん、お酒も。

幸一
ビールは酒に入りませんか？

阿部
入るに決まってるでしょう？岡崎さん、あなたは前にこう言いましたよ

幸一
ね？もう一度、ラグビーができるなら、何だってやりますって。

阿部

幸阿幸阿幸阿幸阿幸
一 部 一 部 一 部 一 部 一

阿部が去る。

わかりました。じゃ、明日から。
いいえ、今日からです。
じゃ、今日の夜から。
いいえ、たった今からです。私の指示に従えないなら、手術はしません。
脅迫するんですか？
これは私とあなたの間のルールです。選手なら、ルールに従ってください。
じゃ、先生もお酒をやめてくれますか？
私は監督だから、飲んでいいんです。
狡い。

アサミが居間でアルバムを見ながら、ビスケットをかじっている。

アサミ

手術が終わった後、阿部先生が言った。「悪いけど、手術は失敗。二度とラグビーはできない」。

幸一

そんなこと言っていない。手術は無事に成功したんだ。

アサミ

幸一

どうしてそうやって悪い方にばかり考えるのかな。母さんは、僕が不幸だったと思ってるの？

アサミ

そういうわけじゃないけど、あんたの人生はあまりに順風満帆で、素直に信じられなくて。(とビスケットをかじる)

幸一

今度は何を食べてるの？

アサミ

ビスケット。塩辛いものを食べたなら、次は甘いものでしょう。

幸一

なんか、調子が狂うな。僕が覚えてる母さんは、こんな人じゃなかったのに。

アサミ

どういう意味よ。

幸一

母さんは「アリとキリギリス」のアリみたいだった。朝から晩まで働いて、

アサミ

ダラダラしてるところなんか見たことなかった。女手一つであんたを育てなさいけなかつたからね。

幸一

僕はね、毎年、授業参観の日が楽しみだったんだ。だって、母さんが僕を

アサミ
幸一

アサミ

アサミ

幸一

生んだのは二十一の時だろう？ 同級生の母親の中では、ダントツで若かった。若くて、元気で、キレイで。僕は母さんのことが自慢だったんだ。それなのに、今は。
私は死んだ時のまま。三十四のままよ。
そうか。母さんは僕より年下なんだ。でも、あの頃は、もっと大人に見えるたのに。
で、手術の後は？
一カ月後に退院。三カ月後にトレーニングを再開。半年後に試合復帰。
阿部先生が言った通りになったのね？
グラウンドに立っただけで、涙が出てきた。日本一になった時よりうれしかったよ。ただの練習試合だったのに、たくさんの知り合いが見に来てくれた。僕におめでとうって言うために。

幸一がアパートに外の出る。豊川・一宮がやってくる。

一宮

幸一

岡崎君、おめでとう。(と花束を差し出す)

ありがとうございます。(と受け取って) 試合に負けたのに、花束をもらうなんて、何だかおかしな気分だな。

一宮
幸一

試合に負けても、怪我には勝った。花束を受け取る権利は十分にある。

僕が復帰できたのは豊川のおかげですよ。(豊川に) この借りはいつか必ず返すからな。

豊川

借りだなんて、水臭いことを言うな。それより、今、うちの会社で小学生向けのラグビー教室を企画してるんだ。よかったら、おまえにコーチをや

幸一　　つてほしいんだけど。
豊川　　早速、借りを返せって言うんだな？　わかった。やるよ。
豊川　　それから、もう一つ。実は俺たち、来月、結婚することになったんだ。
幸一　　おまえと一宮さんが？
豊川　　で、おまえに友人代表でスピーチをしてほしいんだ。おまえが口下手なのはわかってる。だから、一言で構わない。
一宮　　（幸一に）スピーチがいやなら、歌でもいいです。
幸一　　歌なんて冗談じゃない。スピーチをしますよ。
豊川　　ありがとうございます、岡崎。
幸一　　一宮さん、ご結婚おめでとうございます。（と花束を差し出す）
一宮　　ありがとうございます。（と受け取って）幸せになります。

豊川・一宮が去る。

アサミ　　あの二人、いつから？
幸一　　あのインタビュ―の後、豊川が食事に誘ったんだって。
アサミ　　ラグビーは下手でも、女の子を口説くのは上手だったってわけか。あんたと逆だね。
幸一　　ほっというよ。

そこへ、進太郎がやってくる。

進太郎

兄さん！

アサミ
幸一
進太郎

(幸一に) 誰よ、この子。
進太郎だよ。十七年も経てば、赤ん坊も高校生になる。
兄さん、俺、感動したよ。怪我をする前より、体の動きがよくなってるじやないか。

幸一
進太郎
幸一

体質改善をしたからだろう。前より疲れにくくなったみたいだ。
じゃ、本当にやめたの、ビール？ あんなに好きだったのに。
ビールとラグビーとどっちを取るって聞かれたら、ラグビーを取るしかないだろう。

進太郎
アサミ
幸一

兄さんは偉いよ。本当に偉い。(と俯く)
(幸一に) いやだ、この子、泣いてるの？
生まれつき、感動しやすい体質なんだよ。(進太郎に) おまえの方はどうだ。レギュラーにはなれたのか？

進太郎
幸一
進太郎
幸一

ううん。母さんは、さっさと辞めて、受験勉強を始めろって。
でも、おまえはまだ二年だろう。
そうだけど、俺には兄さんみたいな才能はないし。
バカ。俺だって、才能なんかなかった。地道に努力したから、ここまで来られたんだ。おまえもできるところまでやってみろ。

そこへ、奈穂子・勇治・阿部がやってくる。

奈穂子
幸一
奈穂子

幸ちゃん、お疲れさま。
ありがとう、わざわざ来てくれて。
あんたなら、絶対復帰できると思ってたよ。お父さん、カメラ、カメラ。

勇治

奈穂子

勇治

奈穂子

幸一

奈穂子

幸一

奈穂子

幸一

奈穂子

勇治

阿部

幸一

奈穂子

進太郎

幸一

奈穂子

幸一

阿部

幸一

奈穂子

幸一

奈穂子

ああ。(とカメラを構える)

(幸一と腕を組んで) はい、チーズ。

(シャッターを切って) あ、今、幸一が目をつぶった。

いやだ、幸ちゃんたら。そんな写真、生徒に見せられないじゃない。お父

さん、もう一枚。はい、チーズ。

おばさん、生徒って何のこと？

最近、テレビでラグビーの試合をやるようになったでしょう？ うちのク

ラスの子たちに、私の息子は初芝の選手だって言ったら、大騒ぎになっち

やって。明日、この写真を見せて、自慢してやるの。じゃ、今度は家族全

員で撮ろう。ほら、進太郎も並んで。

(阿部に) すみません。シャッターを押してもらえますか。(とカメラを

差し出す)

喜んで。(と受け取る)

すみません、阿部先生。あ、おじさん、おばさん、この人は阿部先生って

言ってる――

知ってる、知ってる。話は全部、本人から聞いた。

(幸一に) 俺、知らなかったよ。兄さんにこんなキレイな彼女がいたなん

て。

今、なんて言った？ 彼女？

岡崎さん、カメラの方を見てください。

進太郎、おまえ、何か誤解してるんじゃないか？

惚けるんじゃないの。

惚けてない。阿部先生は、俺の膝を治してくれた人で、とっってもお世話に

阿部 岡崎さん、カメラの方を見てくれないと、シャッターが押せません。
幸一 先生からも言ってくださいよ。僕らはただの医者と患者だって。

奈穂子 幸ちゃん、それ以上、嘘をつくと、怒るよ。

進太郎 まあまあ、幸ちゃんも照れ臭いんだろう。

勇治 そんなの関係ないよ。(幸一に) 男なら、正直に認めろよ！

奈穂子 あんたが先に怒って、どうするのよ。

阿部 あの、このままだと、とつてもいやな感じの写真になっちゃうと思うんです。

奈穂子 あら、ごめんなさい。ほら、みんな、カメラの方を見て、笑って。はい、チーズ。

勇治 (阿部に) ありがとうございます。(とカメラを受け取って) じゃ、そろそろ食事に行きますか。

幸一 え？ 阿部先生も一緒に行くの？

阿部 私は遠慮したんですけれど、どうしてもって言われて。

奈穂子 幸ちゃんの奥さんになる人だもの。誘うのは当たり前でしょう？

幸一 おばさん、違うんだよ。

進太郎 男なら、正直に認めろよ！

阿部 進ちゃん、こんな所で大きな声を出さないで。機嫌を直して、レストランに行こう。お父さんとお母さんも行きましょう。

幸一 お父さん？ お母さん？ 進ちゃん？

阿部・勇治・奈穂子・進太郎が去る。

アサミ

幸一

アサミ

幸一

恐ろしい女ね。本人より先に、家族を抱き込むなんて。食事の間も、何とか誤解を解こうとしたんだ。でも、お婆さんは全然耳を貸さないし、おじさんは黙ってニヤニヤしてるし、進太郎は怒鳴るし。要するに、三人とも洗脳されちゃったわけだ。でも、このままにしておくわけには行かない。食事の後、僕は阿部先生を家まで送ったんだ。

阿部がやってくる。

阿部

幸一

阿部

幸一

阿部

幸一

阿部

幸一
阿部

お父さんもお母さんも進ちゃんも、みんな優しいですね。今日初めて会ったのに、何だか本当の家族のような気がしちゃいました。まさかと思えますけど、三人に何か誤解させるようなことは言っていないでしようね？
誤解って？
たとえば、僕と阿部先生が付き合ってるとか。
そんなこと言ってます。でも、私は岡崎さんのことをただの患者だとは思ってない、とは言いました。
え？
岡崎さんはどうなんですか？ 私のこと、ただの医師としか思っていないんですか？
女性として、とても素敵なお方だとは思ってます。でも、それ以上は。
(俯く)

阿部 幸一 阿部 幸一 阿部 幸一 阿部 幸一 阿部 幸一 阿部 幸一 阿部 幸一

阿部先生、泣いてるんですか？

うれし泣きです。何とも思っていないって言われたらどうしよう、と
思ってたんで。

だからと言って、付き合うかどうかは。

そんなに大袈裟に考えないで、まずは二人で食事にも行きましょう。

でも、どうして僕なんですか？ 僕はラグビー選手ですよ。先生はラグビ

ーが嫌いでしたよね？

私、ラグビーの試合を競技場で見たのは、今日が初めてだったんです。テ

レビでは何度も見てたのに、今まで気がつかなかったんです。ラグビー

って、アメフトと違って、ボールを前に投げちゃいけないんですね。

そうですね。投げていいのは後ろだけ。たとえ目の前にチームメイトがい

ても、投げたら反則なんです。岡崎さんは普段もラグビーをしてるって。

普段も？

岡崎さんはボールを胸に抱いて走ってる。たった一人で。誰にもパスしな

いで。私、そういう人を見ると、つい応援したくなっちゃうんです。わか

りますか？

すみません。ちよっと難しくくて。

私、次のお休みは日曜なんですけど、岡崎さんは？

僕も日曜は休みですけど。

じゃ、午後六時に新宿のアルタの前で。（と歩き出す）

あ、ちよっと待ってください。阿部先生！

（立ち止まって）治療はもう終わったんだから、先生って呼ぶのはやめて

ください。次に会う時からは、阿部さんか、知香子で。じゃ。

阿部が去る。

アサミが居間でアルバムを見ながら、柿の種を食べている。

アサミ

まるで、蜘蛛の巣にひっかかった、チョウチョみたいね。糸でグルグル巻きにされて、体液をチューチュー吸われて。(と柿の種を口に入れる)

幸一

今度は柿の種？ 母さん、僕の買い置き、全部食べ尽くすつもり？

アサミ

幽霊は体重を気にしなくていいから、楽よね。で、阿部先生とは付き合うことになったわけ？

幸一

何度か二人で食事をして、そのうち、映画を見たり、ドライブに行ったりするようになって。

アサミ

(アルバムを指差して) これはどこ？

幸一

(居間へ行って、アルバムを覗き込み) あ、これは奥多摩。彼女はカヌーが趣味だね。僕に一から教えてくれたんだ。

アサミ

こう見ると、なかなかお似合いね。結婚の予定は？

幸一

それはまだ。でも、向こうだって、もういい年でしょう？ あんたが切り出してくれるのを待ってるんじゃない？

幸一

阿部さんの話は素直に信じてくれるんだ。

アサミ

(アルバムをめくりながら) 川、山、海、砂丘。これだけ写真を見せられたら、信じないわけには行かないでしょう？

幸一

とにかく、これが僕の二十三年。母さんが死んでから、僕はこんなふう
生きてきたんだ。

アサミ

大したもんだね。一流のラグビー選手になって、医者の彼女をつかまえて。
一流とは言えないよ。うちのチームは何度も日本一になったけど、それは

幸一

僕力じゃない。日本代表に選ばれたこともないし。
謙遜するんじゃないの。あんたは十二歳の時、独りぼっちになった。それ

アサミ

なのに、よくここまでやったと思う。
うれしいよ。母さんに褒めてもらえて。

幸一

私のこと、母さんだって認めてくれるの？
幽霊なんて絶対存在しないとってたけど、間違ってたみたいだ。だって、

アサミ

母さんは今、僕の目の前にいるんだから。
ありがとうなら――

幸一

蜂は三匹。
いっぱい話して、お腹が空いたでしよう？ 今日まで頑張ったご褒美に、
食事を作ってあげるよ。(と台所へ行く)

アサミ

へえ、メニューは何？
何が食べたい？(と冷蔵庫を開ける)

幸一

母さんは料理が苦手だったからな。スパゲティはいつも麺が固かったし、
炒飯はベチョベチョだったし。

アサミ

あんた、そんなふうにしてたの？
でも、一つだけ大好きな料理があった。

アサミ

何何？
僕は生まれつき、扁桃腺が大きかった。だから、しょっちゅう風邪を引い

幸一

てたよね？ 母さんは看護婦のくせに、「熱ぐらい、寝てれば下がる」つて言つて、薬も飲ませてくれなかった。母さんが仕事に出かけると、僕は独りぼっち。熱でクラクラするから、テレビも見られない。布団に横になつたまま、一日中、天井を見つめてた。

アサミ

淋しかった？

幸一

ちよつとね。でも、日が暮れてくると、ワクワクした。もうすぐ母さんが帰ってくる。今夜はきつとあれを作ってくれる。

アサミ

わかつた。おじやね？

幸一

そうそう。母さんのおじやは絶品だった。あれを食べると、元気がモリモリ湧いてきた。

アサミ

そんなに好きだったとはね。でも、私のおじやは普通のおじやよ。土鍋にご飯と卵を入れて、煮るだけ。(とシンクの下の戸棚を開ける)

幸一

でも、本当においしかった。こうして話をしてるだけで、唾が出てくる。

アサミ

ねえ、幸一、一つ聞いてもいい？

幸一

あんたは阿部先生に言われて、お酒をやめたんだよね？ でも、ここに帰ってきた時、酔っ払ってなかった？

アサミ

酔ってない。今日は風邪気味で練習に出たから、気分が悪くなっちゃつて。じゃ、これは何？

アサミがテーブルの上に空のウイスキー瓶を置く。何本も。

アサミ

幸一、あんたが聞かせてくれた話は、本当にあったことなの？ それとも、

幸一 ただの作り話？
アサミ どうして僕が作り話なんか。
私を喜ばすためよ。ねえ、どうなの？

携帯電話が鳴る。幸一がポケットから携帯電話を取り出し、画面を見る。

アサミ 出ないの？

幸一 だって、話の途中だから。

アサミ 大事な用事だったら、どうするの。出なさいよ。

幸一 わかったよ。(とボタンを押して) もしもし、阿部さんか？

阿部の声

幸一 幸一さん！ 幸一さん！
どうしたんだよ。そんな大きな声を出して。

阿部の声 幸一さん！ しっかりして！
俺はしっかりてるよ。君の方こそ、何かあったのか？

幸一 幸一さん！ 目を覚まして！ 幸一さん！

阿部の声 頼むから、落ち着いて話をしてくれ。阿部さん？ 阿部さん？

幸一

幸一が携帯電話を切る。

アサミ どうして切ったの？

幸一 これ、壊れてるんじゃないかな？ 僕の声、向こうに聞こえないみたいだ。

アサミ 阿部先生、何だった？

幸一 しっかりして、目を覚ましてって。

アサミ

どういうこと？ 阿部先生と何かあったの？

幸一

(ソファアに座る)

アサミ

やっぱり、あんたの話は嘘だったの？

幸一

嘘じゃない。僕が話したことはすべて事実だよ。でも、変わったんだ。何もかも。

アサミ

いつ？

幸一

半年前だよ。

幸一がアパートの外に出る。阿部がやってくる。ファイルを持っている。

阿部

五年前に痛めたのと全く同じ場所。でも、今度の方が状態が悪い。

幸一

じゃ、また手術するしかないわけだ。

阿部

いいえ、手術はやめた方がいいと思う。成功率はよくて、十パーセント。

幸一

もし成功したとしても、回復までに一年はかかる。

阿部

俺はそれでも構わない。

幸一

今のままでも、普通に生活する分には、何の支障もないでしょう？ だっ

幸一

ったら、無理はしない方がいい。

阿部

どういう意味だ？

幸一

あなたの膝はもう限界なの。ラグビーはやめた方がいい。

阿部

俺に引退しろって言うのか？

幸一

あなたは今年で三十五でしよう？ その年まで続けられただけで、奇跡よ。

阿部

でも、俺からラグビーを取ったら、何が残る？

幸一

あなたには、誰にも負けない、強い心がある。他の仕事に就いても、必ず

幸一
阿部

幸一
阿部

幸一
阿部
幸一

阿部が去る。

豊川がやってくる。

成功する。

ラグビー以外に興味はない。

だったら、ラグビーに関わる仕事を探せばいいじゃない。監督とかコーチとか。

コーチなんかできるもんか。俺が口下手なのは知ってるだろう？

やる前から、決めつけないで。幸一さんなら、きっとできるようになる。

よかつたら、私にも手伝うから。

医者の君がどうやって？

医者としてじゃなくて、妻としてよ。あなた。

あなた？

豊川

幸一
豊川

そうか。引退しろって言われたのか。彼女の意見はもつともだと思う。でも、俺にはどうしても諦められなくてこのまま続けて、また怪我をしたら？ その歳で杖を歩いて歩くことになるんだぞ。

おまえも彼女と同じ意見か。

ここだけの話だけだな、俺、近々、会社を辞めようと思ってるんだ。

辞めて、何をするんだ。

うちの会社は、スポーツ全般を扱ってるだろう？ 俺の今の仕事は、ラグロスの大会の企画。その次は、ビーチバレーだ。でもな、俺はやっぱラグビーが好きなんだよ。だから、ラグビー専門のイベント会社を作ろうと

幸一 豊川 幸一 豊川 幸一 豊川
ラグビーだけで、食っていけるのか？
勝算はある。で、できれば、おまえにも手伝ってほしい。
待てよ。俺には会社の経営なんてできないぜ。
経営は俺がやる。おまえには、会社の顔になってほしいんだ。ラグビーを
やってる人間で、初芝の岡崎を知らないやつはいないからな。
俺はそこまで有名じゃないよ。
何言ってるんだ。その年まで現役を続けられた人間が、他に何人いる。な
あ、頼むよ、岡崎。俺にはおまえが必要なんだ。

豊川が去る。
勇治・奈穂子・進太郎がやってくる。

奈穂子 奈穂子 幸一 奈穂子 幸一 奈穂子 進太郎 奈穂子 勇治
そう、豊川さん、会社を作るの。
あいつは見た目は調子がいいけど、根はまじめだからね。きつとうまく行
くと思う。
幸ちゃんもいろいろ手伝わされるんじゃない？ ラグビー教室の先生とか。
そのことなんだけど、実は俺一
やつぱり、手伝わされるんだ。でも、豊川さんも凄いわね。自分のやりた
いことがやれて。進太郎も少しは見習わないと。
わかってるよ。
（幸一に）この子、まだ就職先が決まらないのよ。来年は卒業だってい
うのに、困っちゃう。
まだ一年も先じゃないか。大学院に行くって手もあるし。

奈穂子
進太郎
奈穂子
進太郎

バカね。この子の成績で行けるわけないでしょう？
俺は作家になりたいんだ。

何言ってるの。あんた、工学部でしょう？

それは、社会より理科の方が得意だったからだよ。理系出身の作家って、結構多いんだ。森見登美彦とか、乙一とか。

勇治

宮沢賢治もそうだな。

奈穂子

無理無理。この子が宮沢賢治になれるわけないじゃない。

幸一

おばさん、覚えてる？俺が高校でラグビーを始めた時。あんな激しいスポーツ、幸ちゃんには無理だって言ったよね？でも、今は？

奈穂子

幸ちゃんと進太郎は違うわよ。

幸一

違わないよ。俺は途中で諦めなかった。進太郎だって、諦めなければ、必ず作家になれるさ。頑張れよ、進太郎。

進太郎

ありがとう、兄さん。(と俯く)

幸一

でも、とりあえず、就職はしないと。そうだ。豊川の会社はどうだ？よかったら、聞いてやろうか？

進太郎

(泣きながら)お願いします。(と頭を下げる)

奈穂子

悪いわね、幸ちゃん。

幸一が三人から離れて、ポケットから携帯電話を取り出す。勇治が幸一に歩み寄る。

勇治

幸一、膝の具合はどうだ？

幸一

どうって？

勇治

最近、試合に出てないだろう。今だって、膝を庇ってるみたいだし、前み

幸一

勇治
幸一

勇治
幸一

勇治が去る。

たいに痛めたんじゃないかと思つて。

実は、練習中に怪我をしちやつてね。でも、阿部さんに診てもらつたら、

すぐに治つた。だつたらいいけど、あんまり無理をするなよ。もういい歳なんだから。

おじさんに言われたくないよ。でも、よくわかつたね。気づかれないようにしてたつもりなのに。

父親だからな。ありがとう、心配してくれて。

次はいつ試合に出る？ 久しぶりに、見に行つてみようかな。席を取るから、必ず来てよ。おばさんと進太郎も一緒に。

アサミが台所から居間へ行く。

アサミ

どういうこと？ あんた、引退するんじゃないの？

幸一

そのつもりだった。おじさんの家に行ったのも、引退するって言うためだった。でも、どうしても言えなくて。

アサミ

勇治たちをガツカリさせたくなかったから？

それもある。でも、僕はやっぱり、ラグビーがしたかったんだ。あのまま終わりにするのが、どうしてもいやだったんだ。阿部さんに酒をやめろって言われた日もね、実はビールを一杯だけ飲んだんだ。一杯だけ飲んでやめようと思つて。

アサミ

それじゃ、今度も？

幸一

次の日、僕は練習に復帰した。監督には、怪我は治りましたって、嘘をついて。膝は痛んだ。でも、我慢できないほどじゃなかった。たぶん、監督

アサミ

には気づかれなかったと思う。

幸一

でも、前のようには動けなかったでしょう？
確かに、公式試合だったら、出させてもらえなかったろうな。でも、次の試合は、学生相手の練習試合だった。

幸一がラグビーボールを持って、アパートの外に出る。一宮がやってくる。

一宮 幸一
一宮 幸一
一宮 幸一
一宮 幸一
一宮 幸一
一宮 幸一
一宮 幸一
一宮 幸一
一宮 幸一
一宮 幸一

岡崎君、あなた、この試合に出るの？
ええ、まあ。

でも、うちの旦那は、もうラグビーができる体じゃないって。

オーバーだな、豊川は。ほら、見てください。(とその場で走って) 普通に走れるでしょう？

悪いけど、信用できない。豊川に確かめてみる。(と携帯電話を取り出す) 待ってください。(と一宮の手をつかむ)

それじゃ、やっぱり。

この試合だけです。この試合が終わったら、二度とラグビーはやりません。でも、もしかた怪我をしたら。

相手は大学生ですよ。僕が潰されると思いますか？

でも、万が一ってことがある。岡崎君には悪いけど、監督に本当のことを言う。(と歩き出す)

これは、僕が選んだことなんだ。あなたに止める権利はない。

(立ち止まって) 岡崎君、あなたは豊川の夢なの。自分にできなかったことをやりとげた人。そのあなたにもしものことがあったら、豊川はきっと悲しむ。私だって。

ありがとうございます。でも、そうやって、悪い方にばかり考えないでください。僕は大丈夫ですから。

僕にラグビーをやらせてください。お願いします。(と頭を下げる)

一宮が去る。笛の音。

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

試合は予想通り、一方的な展開になった。初芝は前半だけで、六回のトライ。他にも、ドロップゴールとペナルティゴールで、得点は四十八対三。あんたの膝は？

走れば走るほど、痛みが増した。でも、まだ我慢できる。後半が始まってすぐ、スクラムから出たボールが僕に回ってきた。敵のゴールまで、三十メートル。行ける！僕は全速力で走った。

どうしてそんな無茶をするの。

でも、たったの三十メートルだ。敵のバックスをかわして、左へ。あと二十メートル、十メートル。左からまたしても、敵のバックス。今度は右へかわした。と思った瞬間、膝に鋭い痛みが。

幸一！

僕は思わず、バランスを崩した。そこへ、後ろから敵のタックル。僕は前のめりに倒れた。膝が地面を打った。その膝の上に、敵が体がのしかかってきた。

幸一が床に膝をつく。笛の音。

アサミ

幸一

アサミ

それで？

あまりの激痛に、僕は気を失った。目が醒めた時、僕は病院のベッドで寝ていた。

どれぐらいの怪我だったの？

幸一
靱帯断裂、半月板損傷。ここまでひどい怪我は初めてだった。応急手当で
が終わると、僕は阿部さんの病院に行った。検査の結果は最悪だった。

阿部がやってくる。幸一が椅子に座る。

阿部
私にできるだけのことはする。でも、元の状態には戻せないと思う。

幸一
そうか。

阿部
私がシカゴ大学にいた時、お世話になった教授がいるんだけどね。その人
なら、もっとよくすることができるかもしれない。連絡してみる？

幸一
それで元通りになる可能性は？

阿部
○パーセント。それができるのは神様だけ。

幸一
だったら、君に任せるよ。

阿部
じゃ、このまま、入院してもらおう。手術は明日。

幸一
退院は？

阿部
わからない。場合によっては、二回目、三回目の手術が必要になるかもし
れないし。でも、それは、あなたの膝を少しでもよくするためなの。焦ら
ないで、我慢して。

幸一
怒ってるんだらう？ 俺が約束を破ったこと。

阿部
そのことはもういいのよ。

幸一
よくないよ。俺は君を裏切ったんだ。それなのに、なぜ責めないんだ。

阿部
私が止めたら、試合に出るのをやめた？ やめるわけないよね。あなたは

幸一
そういう人よ。たった一人でラグビーをする人。

阿部
そうか。

阿部が去る。

幸一 三カ月後、豊川が見舞いに来た。

豊川がやってくる。

豊川 やつと退院できるんだって？

幸一 ああ、来週の月曜だ。

豊川 今日まで見舞いに来なくて、すまなかつたな。

幸一 気にするなよ。会社の準備で忙しかったんだらう？

豊川 そのことなんだがな。俺、会社を作るのはやめたよ。
どうして。

豊川 やっぱり、ラグビー専門だと、経営が難しそうで。おまえにも、弟さんにも迷惑をかけるけど、許してくれ。この通りだ。(と頭を下げる)

幸一 正直に言えよ。俺のせいなんだろう？

豊川 違うよ。

幸一 会社の顔になるべき人間が、ラグビーで大怪我をした。そんな会社に、イベントを頼むやつなんかいるわけないもんな。

豊川 おまえは関係ない。俺に会社の経営は無理だったんだ。

幸一 豊川、本当のことを言えよ。
言つて、どうなる？ おまえに悪気はなかった。最後にもう一度だけ、ラグビーがやりたかつたんだらう？

幸一 でも、俺はおまえの期待を裏切つた。俺がおまえだったら、絶対に許さな

豊川
許すさ。だって、おまえはもう十分に罰を受けた。
い。

豊川が去る。

幸一
退院の日、進太郎が迎えに来てくれた。

阿部・進太郎がやってくる。阿部が幸一にステッキを渡す。幸一が立ち上がり、ステッキをついて、歩き出す。が、よろめく。進太郎が幸一を支える。幸一が進太郎の手を振り払う。

進太郎
兄さん……。

幸一
余計な手出しをするな。一人で歩ける。

進太郎
でも……。

岡崎さんはもう怪我人じゃない。右足に強い力をかけられないだけ。だから、車も運転できるし、自転車にも乗れる。普通の人にできることは何だ
て。

幸一
でも、ラグビーはできない。

阿部
あなたはこれから第二の人生を歩むの。そう考えればいいじゃない。

幸一
お笑い草だな。こんなものがなくちゃ歩けないのに、何が第二の人生だ。

進太郎
やめろよ、そういうことを言うの。

幸一
おまえに何がわかる。

進太郎
ラグビーができなくなっても、兄さんは兄さんだよ。岡崎幸一は、絶対に

泣き言を言っちゃいけないんだ。

阿部・進太郎が去る。

幸一

次の日から、僕は会社に出勤した。僕の仕事は、製造部から検査部に移されてきた。朝から夕方まで、椅子に座って、製品のチェック。僕は酒を浴びるほど飲んだ。飲まなければ、気が狂いそうだった。

阿部がやってくる。

阿部

前に話したよね？ シカゴ大学の教授のこと。その人に相談してみたなら、あなたの膝、まだ治療の余地があるって言うのよ。よかったら、シカゴに行つて、診てもらわない？

幸一

でも、君は元通りにはならないって。

阿部

ラグビーみたいな激しい運動は、やっぱ無理だと思う。でも、ステッキを使わずに歩けるようになるなら、その方がいいでしょう？

幸一

いくらかかる。

阿部

お金のことは気にしないで。私が何とかするから。

幸一

君に出してもらおうわけには行かない。

阿部

だったら、貸す。利子はナシ。返済期限もナシ。

幸一

そういうのは貸すって言わない。俺は君に迷惑をかけたくない。

阿部

私はあなたに立ち直ってほしいの。もう一度、前を向いて、歩いてほしいのよ。

幸一
阿部

幸一

幸一
阿部
幸一
阿部

阿部

幸一
阿部
幸一
阿部
幸一

歩いてるよ。ただし、こいつに頼りながらだけど。あなたには、三十五歳までラグビーを続けてきた、実績がある。その実績を活かせばいろんなことができるはずよ。講演会を開くとか、本を書くとか。

俺の本なんか、誰が読む。確かに、この歳までラグビーを続けた。でも、それだけじゃないか。日本代表に選ばれたこともない。ワールドカップに出たこともない。挙げ句の果てに、学生相手の練習試合で、大怪我だ。ダメな選手の見本じゃないか。

そんな人を、私が好きになると思う？

君にはわかってなかったんだよ。俺が本当はどんな人間か。

そんなことない。

君は前に言ったよな？ 俺は一人でラグビーをしてるって。それがなぜだか、わかるか？ 怖いからだよ。他人にパスをするのが。パスして、キヤツチしてもらえなかったら？ そう考えたら、一人で突っ走るしかなかったんだ。

そんなこと、最初からわかってた。でも、それでもいいと思った。いつかはきつとパスしてくれる。その日が来るまで、そばにいようって。悪いけど、俺は自分のことで精一杯だ。君にパスはできない。

だったら、また待つ。

待っても無駄だ。

そう言われても待つ。

頼むから、やめてくれ。俺を一人にしてくれ。

阿部が去る。

アサミ

それで？

幸一

酒を飲みに行った。いくら飲んでも酔えなくて、気づいた時には、午前零時を過ぎていた。で、家に帰ってきたら、母さんがいたんだ。

アサミ

家にはどうやって帰ってきたの？ 電車？ タクシー？
自分の車だよ。飲酒運転が犯罪だってことはわかってたけど、もうどうでもよくなつて。

アサミ

お酒はどこで飲んだの？

幸一

新宿の歌舞伎町。

アサミ

新宿からどうやって帰ってきたの？
中央高速に乗って、府中インターで降りて。

幸一

それから？
甲州街道を右に曲がって、鎌倉街道に入つて。

アサミ

それから？
関戸橋で多摩川を渡つて。

幸一

次の交差点を左に曲がろうとしたら、横断歩道に歩行者がいて。だから、慌ててハンドルを右に切つて。

車がスリップする音。対向車に衝突する音。

岡崎

僕は……。

アサミ
アサミ

： 思い出した？ 何かあったか。
： 僕は死んだの？
まだ生きてる。でも、死にかかっている。だから、私と話ができるのよ。

阿部がやってくる。反対側から、勇治・奈穂子・進太郎がやってくる。

勇治 あ、阿部さん、幸一は？

阿部 十五分ほど前に、救急救命センターから、オペ室に移されました。

奈穂子 怪我の具合は？ かなりひどいんですか？

阿部 頭と胸を強く打ったようです。当直医の話によると、頭蓋骨や肋骨など、数カ所が骨折していて、脳と肺も損傷しているそうです。

奈穂子 脳も？

阿部 一部に出血が見られるそうです。それ以上のことは、教えてもらえませんでした。

勇治 意識は？

阿部 ありません。救命センターから出てきた時、呼びかけてみたんですが、何の反応もありませんでした。

進太郎 でも、手術すれば、助かるんですよね？

阿部 わかりません。担当医の様子を見る限り、非常に危険な状態であることは確かだと思います。

進太郎 そんな……。やっとなんか膝が治ったっていうのに、どうして兄さんばかりこんな目に。

奈穂子 (阿部に) あの子、お酒を飲んでたんでしょ？ 自業自得よ。

進太郎

勇治
阿部

それじゃ、母さんは、兄さんが死んでも仕方ないって言うのか？
やめろ、進太郎。（知香子に）それで、オペ室は？
この奥です。私のご案内します。

阿部・進太郎が去る。

勇治

どうした。行くぞ。

奈穂子
勇治

私は、死んでも仕方ないなんて思っていない。あの子は私の息子なのよ。
わかってるよ、おまえの気持ちは。さあ。

勇治・奈穂子が去る。幸一が居間へ行く。

幸一

最初から知ってたの？ 僕が死にかかっていること。

アサミ

まさか。
いや、母さんは知ってたんだ。ここに来たのは、僕を向こうへ連れていく
ためなんだ。

アサミ

最初に言ったでしょう？ 気づいた時にはここにいたって。

幸一

神様が迎えに寄越したんだよ。僕はやっぱり死ぬんだ。

アサミ

だとしたら、私は死者の魂を天国に導く天使ってわけね？
人間の寿命を断ち切る死神かもしれない。

幸一

こんなキレイな死神がいるもんですか。
天使はポテトチップやビスケットをボリボリかじったりしないよ。
（笑って）私は天使でも死神でもない。あんたの母親。母親が息子の死を

アサミ

願うと思う？
それじゃ。
死ぬのは絶対に許さない。今すぐ、生き返りなさい。
生き返っていいの？ でも、どうやって？
あんたは自分が死んだことに気づかないで、家に帰ってきた。自分の体を残して。今頃、体は病院にあるはず。そこまで行って、中に入るのよ。
僕の体の中に？
そう。それだけでいいの。
でも、その体は事故でボロボロになってるよね？ もし治ったとしても、やっぱりステッキなしじゃ歩けない。
このまま死ぬよりはマシでしょう。
そうなのかな？
当たり前でしょう？ 死んだら、何もできなくなる。食べることも、飲むことも、人と会って話すことも。
でも、ラグビーは？
三十五歳までやったんだもの。もう十分でしょう？
そうだよな。僕は十分にラグビーをやった。思い残すことは何もない。
何だった？
僕は生き返らない。僕の人生は、今日で終わりにするよ。
バカなことを言うんじゃないの。まだ何十年も生きられるのに、どうして終わりにするのよ。
生き返っても、ラグビーはできないんだよ。ラグビーどころか、走ることもできない。ステッキがなければ、歩くことも。そんな人生、僕には必要

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

アサミ

幸一

ないよ。

あんたが死んだら、阿部さんはどう思う？ 勇治は？ 奈穂子さんは？

進太郎は？

悲しんでくれるかもしれない。でも、生き返ったって、また迷惑をかけるだけだ。

かければいいじゃない、いくらでも。みんな、きつと許してくれる。あんたのことが好きだから。

僕はいやだ。僕は誰にも迷惑をかけたくない。三十五にもなって、人に頼って生きるなんて、そんなの我慢できない。一人で生きていけないなら、

死んだ方がマシだ。

どうして。

ずっと一人で生きてきたからさ。

母さんが死んだ日から。私が死んだ日から？

僕は幸せだったんだよ。母さんは僕を育てなきていけなから、大変だったかもしれない。朝から晩まで働いて、休みの日はクタクタ。だから、どこにも連れていってもらえなかった。でもね、僕に不満は何もなかった。だって、父さんは僕を捨てたけど、母さんは捨てなかったからね。

幸一……

でも、母さんは死んだ。どんなに好きになっても、突然、いなくなるんだよ。僕には絶対に止められないんだよ。だったら、最初から一人でいい。幸一。

一人なら、怖くない。相手を失うんじゃないかって、考えずに済むんだ。

アサミが幸一の頬を叩く。

幸一 何するんだよ。

アサミ 三十五にもなつて、何もわかってないのね。頭の中は十二のまま。

幸一 偉そうなことを言うなよ。僕より年下のくせに。

アサミ 私だつて、幸せだった。それは、あんたがいたからよ。キュウリが食べられなくて、野球が下手で、女の子にモテなかったあんたがいたから。

幸一 わかつてるよ、そんなこと。

アサミ いいえ、全然わかってない。わかつてたら、一人でいいなんて言うはずがない。人はね、幸一、一人じゃ幸せになれないの。

幸一 携帯電話が鳴る。幸一がポケットから携帯電話を取り出し、ボタンを押す。

幸一 もしもし。

遠くに、阿部・豊川・一宮・勇治・奈穂子・進太郎が現れる。

阿部 幸一さん。

豊川 岡崎君。

一宮 幸一。

勇治 幸ちゃん。

奈穂子 幸さん。

進太郎 兄さん。

阿部 豊川 一宮 勇治 奈穂子 進太郎 阿部

すっかりして。
帰ってこい。
目を覚まして。
死ぬな。
死なないで。
帰ってきてよ、兄さん。
幸一さん。

岡崎が携帯電話を切る。阿部・豊川・一宮・勇治・奈穂子・進太郎が消える。アサミが台所から土鍋とレンゲを持ってくる。居間のテーブルの上に置く。

アサミ さあ、できたよ。あんたが大好きだった料理。(と蓋を取る)

幸一 ……

アサミ 風邪の時はおじやが一番。これを食べて、元気を出しなさい。

幸一 僕は風邪は引いてないよ。

アサミ ううん、引いてる。体じゃなくて、心が。このおじやを食べれば、風邪の

ウイルスなんかイチコロよ。子供の頃もそうだったでしょう？

幸一 確かに、次の日はすっかり熱が下がった。まるで、魔法の薬だった。何か

特別なものでも入ってるの？

アサミ 母さんの愛情。

幸一 聞かなきゃよかった。

アサミ つべこべ言っていないで、食べる食べる。いただきますは？

幸一 いただきます。(レンゲでおじやを掬い、口に入れる)

アサミ どう？ おいしい？

幸一 (頷く)

アサミ ごめんね、幸一。あんたを一人にして。でも、あんたは立派に生きてきた。今はもう一人じゃない。だから、信じていいの。あんたのそばにいる人たちを。

幸一 母さん、ありがとうなら。

アサミ 蜂は三匹。

幸一 子供ができたなら、教えるよ。岡崎家の伝統にする。

アサミ 私はやめた方がいいと思う。さあ、残さずに、全部食べるのよ。で、食べ

終わったら、行きなさい。病院へ。あんたの体の中へ。じゃあね。(と玄

関に向かって歩き出す)

幸一 どこへ行くの？

アサミ 私も帰るのよ。元の場所へ。

幸一 元の場所って？

アサミ 意外と近くなのよ。勇治が言ってたでしょう？ ここからたったの四、四キロ先。

アサミが玄関の扉を開ける。

アサミ 本当はたまに見てたんだ。あんたのこと。

幸一 本当？

アサミ 聞こえなかった？ 「頑張れ、幸一！」って声。

幸一 聞こえなかった。

アサミ じゃ、今度はもっと大きな声を出さなくちゃ。じゃあね。

アサミが外に出ていく。岡崎がおじやを食べる。波の音。

へ
幕
へ